



## 近藤 豊 先生

名古屋大学大学院 医学系研究科  
腫瘍生物学 教授

### ゲノム調節の鍵を握る長鎖非翻訳RNA —革新的がん治療標的への挑戦

ゲノム・エピゲノムの異常は、がんの発生および進展に深く関与していることが知られている。近年、長鎖非翻訳RNAをはじめとする多様な非翻訳RNA分子が、ゲノムおよびエピゲノムの制御に重要な役割を果たすことが明らかになりつつある。こうした非翻訳領域から転写されるRNA群については、依然としてその機能の多くが未解明であり、治療標的としての応用も限られているのが現状である。本セミナーでは、長鎖非翻訳RNAの一つである **Taurine Upregulated Gene 1 (TUG1)** の生物学的意義とゲノム制御機構の解明に向けた我々の取り組みを紹介する。さらに、**TUG1**を標的とした核酸医薬の臨床応用を目指す最新の研究成果を概説し、RNA分子を介したがん制御の新たな可能性を展望する。

**日時：2025年12月15日（月） 16:00～17:00**

**場所：医学部 北棟5階 セミナー室**

後援：共同利用・共同研究拠点「細菌やウイルスの持続性感染により発生する感染癌の先端的研究拠点」

2025年度（令和7年度）新たな学際領域を生み出す異分野融合研究拠点をコアにした若手研究者育成

問い合わせ：園下 将大 [msonoshita@igm.hokudai.ac.jp](mailto:msonoshita@igm.hokudai.ac.jp) 内線8801